

民主主義の根幹揺らぐ

懲罰処分で浜浦議員の言論奪う

議会での言論封殺が市民の独裁国家

柏原市議会は、三月議会で不透明な市政を追及した浜浦佳子議員に対して「利益誘導、品位を欠く」など見当違いの理由で懲罰特別委員会を開き、議員活動停止処分とした。これにより浜浦議員は六月議会で発言機会を失った。議員の言論を封殺する暴挙は民主主義国家にあつてはならない重大な事態だ。



不透明な市政を議会で追及する議員を懲罰にかけ言論を封殺する柏原議会。これではまるで独裁国家でないか

市民から選ばれた市議員が、不当に権力者から不利益を受け、議員としての自由な発言が保証されている。最も重要な職務である。市民から選ばれた市議員が、不当に権力者から不利益を受け、議員としての自由な発言が保証されている。最も重要な職務である。

「談合の端緒をつつた」として逮捕され、一審判決で有罪となつた刑事被告人である中司宏前牧方市長を、岡本市長は柏原市の「まちづくり戦略会議」の議長として、柏原市に迎え入れた。本人いわく「二十年來の友人」という。

私たちの主張

市行政改革を担う組織の座長に談合で逮捕された人物を採用するというのはあまりに非常識。これには多くの市民はもちろん、マスコミも問題視し「自治体が刑事被告人を要職

に採用するのは、前代未聞」と大々的に取りあげた。それに対して岡本市長は「貫して彼は無罪だ、えん罪だ、かわいそうだ」とかばい、「採用の執行権は私にある」と、独断を正当化し批判の声に一切耳を貸さなかった。

中司氏起用した市長の責任

「市民の税金から、中司氏に四百二十万円も給与が支払われる。一千円より安いわ! お前が辞めたらええんや!」市長の品格をうんぬんする前に、普通の大人としての常識に欠けていると言わざるをえない。

市民の力で独裁阻止を

このように、独裁とも言える市長と、それをおそれて反対意見を言えない市議会。市政の疑問を追及しようとする議員はあからさまに言論を封殺される。これが柏原市政の実態である。これを打開し、市民の利益を優先する市政を実現するために必要なのは、不正を見逃さず市政をしっかりと監視する市民の方だ。

本紙が報道した通り、このたびの一連の家庭ゴミ入札問題で、柏原市政の異常さが白日の下に晒されました。岡本市長を取り巻く利権構造の一部が明らかになり、それに異を唱える者には露骨な言論封殺がおこなわれたのです。

みなさまの声募集中
info@change-kashiwara.com
〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502 FAX 072-977-8782

市民から選ばれた市議員が、不当に権力者から不利益を受け、議員としての自由な発言が保証されている。最も重要な職務である。

浜浦議員への懲罰動議は中野議員、乾一議員ら、市長派、議員の連名で提出。この入札で新規参入を図る業者社長の娘である議員も同じ会派であり、市長の利権と一致する者たちだ。懲罰特別委員会は「秘密会」とされ非公開、第一回委員会

では浜浦議員本人の発言さえ許されなかった。懲罰理由の「利益誘導」も法的に不当であるし、浜浦議員が「品位に反する」というのなら、議長に向かって「おい、コラ、議員を『おまえ』呼ばわりして暴言を吐く岡本市長の品位は厳重懲罰を受けるべきだ。」

このように、独裁とも言える市長と、それをおそれて反対意見を言えない市議会。市政の疑問を追及しようとする議員はあからさまに言論を封殺される。これが柏原市政の実態である。これを打開し、市民の利益を優先する市政を実現するために必要なのは、不正を見逃さず市政をしっかりと監視する市民の方だ。

会が自由な言論の府であることは、民主主義の根幹だ。ところが柏原市議会など、にわか信じられないような言論封殺が起った。

三月議会で浜浦佳子議員は、家庭系一般廃棄物収集業務の入札制について、その「根拠」を質した。この不透明な入札には、岡本泰明市長と一部新規参入業者との利権関係が疑われたから

今年のはむき夫・亀蔵の七周忌。亀蔵は、早くから環境問題に関心をもち、リサイクルやゴミゼロ運動、地域のお祭り、小学校でのゴミ教室、また「防犯ルミナリエ」など、次々におもしろいアイデアを実践しました。そのほとんどを自費でまかない、皆の喜びを自分の喜びにしました。地域の方や多くの子供たちに慕われた幸せな人生でした。

「利益誘導」をしたのは誰なのか? 三月議会で、家庭ゴミ収集業務の入札制度について質問した浜浦佳子議員に対して、議会は懲罰動議を出し議員活動停止という重い処分をくだした。その理由の一つが「利益誘導」なのだが、これは明らかに不当だ。浜浦議員は、委託廃棄物収集業者の元社長であったが、入札の不透明さを質問するのは議員としての正当な権利だ。適正に業務を行い長く市民に愛され



パトロール

たの誰なのか? 三月議会で、家庭ゴミ収集業務の入札制度について質問した浜浦佳子議員に対して、議会は懲罰動議を出し議員活動停止という重い処分をくだした。その理由の一つが「利益誘導」なのだが、これは明らかに不当だ。浜浦議員は、委託廃棄物収集業者の元社長であったが、入札の不透明さを質問するのは議員としての正当な権利だ。適正に業務を行い長く市民に愛され